

教育目標		たくましく心豊かな子どもの育成						
重点目標		・「主体性」をキーワードに保育実践を行い、「意欲」「豊かな表現」「思いやり」「共同」を育む教育を推進する						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
確かな学力の向上	主体性の尊重	○自ら主体的に行動し、遊び込む子どもを育成する保育を実践する。 ・子どもの「やりたい」「やってみたい」という姿を視点に記録をとり、職員間でカンファレンスを行い、遊び込むための援助を探る。 ・遊び込む子どもを育成するための援助のポイントを共通理解し、日々の実践にいかす。 ・子どもが主体的に遊びを進めることができるよう、特に園庭の遊びの環境を職員間で話し合い、共通認識をもって環境を設定する。	・保護者アンケートの中で、「子どもは、やりたい事ややってみたい事に挑戦しようとする気持ちが育ってきている」などの回答の結果が90%以上になる。 ・週1回2クラスずつメモ事例を話し合い、毎月1つは保育事例を書き、カンファレンスを行う。 ・遊び込む子どもを育てるための援助のポイントをまとめる。 ・園内研究会(年間3回)や市内研究発表会を通して、自らの保育を公開し、学びの機会を	B	・保護者アンケートの結果、90%以上の肯定的な回答を得られた。また、子どもが好きな事、やりたい事、興味のある事に取り組める環境が園にあるという評価をいただくことができた。 ・メモ事例については、3学期は取組ができなかったが、毎週の環境に関する打ち合わせを丁寧に行い、特に園庭の共有部分はそれぞれの学年の状況に合わせて構成していくことを共通認識できた。 ・園内研究会や市内研究発表の場を設け、公立私立の就学前施設の職員、小中学校の職員などに保育実践を公開することができた。	・日々の情報共有を大切に連携と密にしながら、職員全員ですべての子どもを育てるとい意識をもつ。 ・遊びの姿から子どもの内面を読み取り、次の手立てを考えられるように、実際に遊ぶ姿を通して職員間で学び合う場を設ける。 ・子ども自ら主体的に遊ぶことができるように、環境や教師の援助を仕掛けていくことを推進する。その後の振り返りを通して、教師自身が学ぶ。 ・隣接する小学校の校内研究会に参加し、互いの教育について学び合い、教師間の連携を推進する。	・コロナ禍の中、「やりたい」気持ちと実際に活動可能なこととのバランスをとる必要がありますが、職員間で課題を共有し、今後も主体性を育むための環境作りを努めていって欲しい。 ・子ども自身がじっくりと振り返ることができる場を設けることがより主体性を育むことができると思います。	
	インクルーシブ教育の推進と充実	○個に応じた適切な援助を計画、実施し、子ども同士が互いに認め合い共に育ち合う保育を実践する。 ・特別支援対象児に対し、個別指導計画を作成する。 ・必要に応じて巡回相談や専門機関など、外部機関との連携を図る。 ・特別支援対象児だけでなく、すべての子どもが安心して生活することができるような保育を実践する。	・保護者アンケートの中で、「一人一人の子どもに愛情をもってかかわり、個々の発達に応じた教育を行い、共に育ち合うようにしている」の回答の結果が80%以上になる。 ・個別指導計画を前期、後期に作成し、保護者に開示、面談を行い、家庭と連携して支援する。 ・特別支援コーディネーターを中心に、外部と連携を図り、そこで得た情報は職員間で共有し、実践する。 ・一人一人の子どもに対する支援や情報を職員間で共有、相談し、実践する。	A	・保護者アンケートの結果、90%以上の肯定的な回答を得られた。 ・巡回相談やコンサルテーションなどを受け、一人一人が安心して園生活を送ることができる環境作りを実践している。 ・保護者との園生活の共有を心がけ、家庭と園が同じ方向で支援することができるようにしている。	・職員間の情報交換、情報共有を大切にし、一貫した支援方法を検討し、共有する。 ・子ども理解について、保護者啓発を継続して行う。	・今後も特別支援教育に対する理解、園児についての情報共有を行い、インクルーシブ教育をさらに進めていって欲しい。	
豊かな心と健やかな体の育成	豊かな心を育む道徳教育の推進	○自尊心や他を思いやる気持ちを育む保育を実践する。 ・一人一人の子どもが自分を好きになれるような保育を実践する。 ・友達のように気付き、互いに思いやりをもって接することができるような保育を実践する。 ・一人一人の好きなことや自信がもてることが見つかるように関わり、子どもの意欲や取組の過程を認める声掛けを行う。 ・子どもと共に生き物の世話をしたり、野菜や花の栽培を通して生長を観察したりしながら命の大切さに気付くような保育をする。	・保護者アンケートの中で、「子どもは、自分を大切に、他を思いやる気持ちをもつことができるようになってきている」の回答の結果が80%以上になる。 ・一人一人の好きなことや自信がもてることが見つかるように関わり、子どもの意欲や取組の過程を認める声掛けを行う。 ・子どもと共に生き物の世話をしたり、野菜や花の栽培を通して生長を観察したりしながら命の大切さに気付くような保育をする。	A	・保護者アンケートの結果、90%以上の肯定的な回答を得られた。 ・園児一人一人に目を向けられているという評価をいただくことができ、今後も個々の存在を丸ごと受け入れていけるように関わる。 ・身近な生き物だけではなく、物に対しても大切に扱えるように、目に見えない「心」の教育を保育の中で実践していく。	・子どもの内面を丁寧に読み取り、安心して自己発揮ができるような環境の構成を工夫する。 ・日々の生活の中で一人一人の思いに寄り添い、子を大切に集団教育を創造する。 ・教師自身の道徳性を高め、研修や啓発誌を通し人権意識を高めていく。	・保育者が一人ひとりの園児を大切に思い、丁寧に保育していただいているからこそ結果だと思われれます。	
	健康教育の充実(健やかな体づくり)	○基本的生活習慣を確立し、自らの健康について関心をもてるようにする。 ・身近な感染症について知り、自らの健康に関心をもつことができるような保育を実践する。 ・ほけん日よりけんこうカレンダーなどを通して、保護者啓発を図る。	・保護者アンケートの中で、「自らの体について関心もち、健康を意識して行動するようになってきている」の回答の結果が85%以上になる。 ・月1回発達段階に応じたほけんのはなしを実施する。 ・月1回ほけん日よりを発信し、学期に1回けんこうカレンダーを実践することで、家庭と連携しながら子どもの健康への関心を高めていく。	C	・保護者アンケートの結果、肯定的な回答が80%に満たなかった。健康を意識して行動するという点において、自覚的に行動するというよりは、習慣的に行動しているということが考えられる。 ・ほけんの話やけんこうカレンダーなどを通じて、家庭啓発とともに、意識して行動できるように、可視化できる環境を園内につくる。	・身近な感染症や風邪について、日々の保育の中で子ども達に伝え、自ら健康について興味をもつことができるようにする。 ・ホームページや掲示物、けんこうカレンダーなどを使って家庭啓発を行い、家庭と連携して子どもが自らの健康を意識する行動ができるようにする。	・「自らの体について関心もち、健康を意識する」ことはなかなか難しいですね。コロナ禍だからこそ、少しずつ意識が広がっていくといいですね。	
開かれた園づくり	園情報の積極的な発信	○園の情報発信を工夫し、園教育の理解を推進する。 ・ホームページを通して、園生活の様子を発信する。 ・Googleクラスルームやクラスだより、幼稚園だよりを通して、子どもの育ちや学びを具体的に伝える。 ・Googleクラスルームを情報の発信源として使用し、保護者にとって身近なものになるようにする。	・保護者アンケートの中で、「クラスだよりやようちえんだより、ホームページなどを通じて、教育方針や活動内容を発信している」の回答の結果が80%以上になる。 ・月4回以上ホームページを更新する。 ・クラスだよりを月1回以上発信する。 ・Googleクラスルームを使って、カラー版クラスだよりや日々の子どもたちの様子を配信する。	A	・保護者アンケートの結果、90%以上の肯定的な回答を得られた。ホームページとGoogleクラスルームを適宜利用し、園生活の様子を家庭や地域と共有できるように工夫する。 ・ホームページの更新を行事の時を中心に行うことができた。また、日常の様子もアップすることで、園教育の様子を広く理解していただくことに繋がってきている。 ・コロナ禍で園内への立ち入りができないなど、保護者や地域とのつながりが希薄になりがちなところを、情報を公開し、より理解をしていただくことを心がけ、実践する。	・ホームページに日常の様子を掲載し子ども達の姿とともに、生活の中の学びや教育の中で大切にしていること、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿などを記載し、教育方針や活動内容を実態と照らし合わせながら発信する。 ・保護者への日常的な配信を行い、家庭と園で共有できるデジタルツールとして活用を推進する。	・あらゆるツールにより情報発信に努めておられることは、保護者や地域にとってもありがたいことです。アンケートの肯定的な結果につながっていることが感じられる。 ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿などを記載し、教育方針や活動内容を実態と照らし合わせながら発信する。 ・保護者への日常的な配信を行い、家庭と園で共有できるデジタルツールとして活用を推進する。	

○学校関係者評価総括
 ・ほとんどの項目で成果が90%以上を超えている結果となり、コロナ禍の中での保育にも自信が持てる環境だと思えます。遊びから主体性を伸ばせることは、公立幼稚園の一番の特色だと思えます。

○次年度に向けた重点的な改善点
 ・自身への健康の関心の低さは、家庭の健康関心度とも比例すると思えます。このコロナ禍でマスクや消毒などの習慣は身につけているはずなので、ウイルスの正しい知識やウイルスとの共生等を大人と共に学んでいけるといいと思えます。家庭啓発の工夫が大切だと感じます。